

5月3日

大渋滞に捕まり、樽池ゴンドラの営業終了後に到着。しかし、下山客を乗せて動いているので、係員にお願いしたら乗せてもらえた。ただし、上のロープウェイは営業終了なのでシールを付けて林道を歩く。約1時間半で立派な樽池山荘に到着。新築後間もないようで設備の良さに感心するばかりであった。風呂にも入り、山の宿でゆっくりくつろいだ。

5月4日

朝6時半過ぎに山荘を出発する。雲は有るが、陽は射している。目の前の尾根を登ることとし、右にトラバースして尾根を少し登ると天狗原への斜面の基部である。傾斜がきつく、雪も硬いのでシールでは苦勞する。ここを抜けると天狗原で、前には白馬乗鞍の大斜面が広がる。斜面左よりを、スキーを担いで直登する。白馬乗鞍山頂は平原状で、大ケルンが一際目立つ。夏道は大池山荘を経由するが、積雪期は小蓮華への尾根に直接取り付く。風が強く、気温も上がらない。雪も硬く、スキーを担いでアイゼンを付けた。白馬三山から後立山方面は雲がかかっている。小蓮華周辺の稜線はさらに風が強く、スキーを背負っているため時々あおられて怖い思いをする。三国境手前、夏道は県境へトラバースだが雪の斜面を直登しているのをそれを辿る。やがてガスに突入、風雪となり周囲が全く確認できない状況となった。三国境は二重山稜であるため雪が堆積し、目印となる岩や地面が露出していないため、白一色に包まれて足下も覚束なく、GPSを見ていても進むのは難しい。昨年の大量遭難の原因が理解できるように思う。GPSはどうしても1テンポ遅れてトレースを表示するので、常にコンパスを見ながら進む必要がある。感覚的には1mくらいしか見えていないように思う中、雪壁を登って右手の尾根に上がると、夏道の一部が露出していた。ここからも、細心の注意を払いながら進路を確認して進む。トレースがわずかに残っており、また、しばらく行くと柵用の鉄支柱が並びだし、それを見失わないように進むと白馬山頂であった。エビの尻尾は20cmほどに成長していた。相変わらず風雪だが、ここまでくれば安心する。広い斜面を下り、15時半小屋に到着した。

5月5日

天気予報では今日は好天である。外を確認すると雲一つ無い青空が広がっていた。6時30分過ぎに小屋を出発する。雪が硬いため旭岳との鞍部方向にしばらく歩いて下り、スキーを履く。鞍部からは傾斜が急で滑降は危険だが、小屋前から続く右手斜面は凹状で滑りやすく、柳又谷源頭へと滑降する。柳又谷源頭は新雪で、スケールも大きく素晴らしい。左手旭岳の方からは、柳又谷の下方にシュプールが一つのみ続いている。どこまで滑り降りたのだろうかと思わせる。白馬岳下方の開けた斜面を通過すると、前方に鉢ヶ岳とその下の長池が近づいてくる。暑いので上下のヤッケを脱ぐ。長池は左から回り込めそうだと近づくと、鉢ヶ岳の西斜面が急であるため、右から回り込んだ方が良いことが分かった。先行者もそちらに向かっており、シールを貼って池を回り込んで鉢ヶ岳手前の鞍部への斜面に取り付く。最後は担いで鞍部へ出た。鉢ヶ岳は東斜面をトラバースするか、稜線沿いに登るかだが、稜線を選択する。頂上からの下降は、北東斜面を下りるのが凸状斜面で下が見えにくいので少し下りてみると、広い斜面が広がっていた。下には、トラバースを辿った3人パーティが休んでいるのが見える。斜面を少し降りてみると、トラバースは雪庇状の雪壁に阻まれて大回りしているのが分かり、稜線沿いが良いと判断して稜線を進んだ。雪倉の避難小屋で小休止の後、小屋の少し上でシールを貼って雪倉の登りに取り付く。夏道は右の尾根沿いだが、雪が途切れるので左側の斜面を上がって左の稜線に出る。風で雪が飛ばされており、最後はスキーを担いで山頂に立った。蓮華温泉から上がってきた山スキーヤーで賑わっている。毎年雪倉に来ているという方は、このような快晴無風は初めてと言っておられた。皆は東面を下って行くが、我々は北面に向かう。山頂からしばらくは雪が少ないため、スキーを担いで下りると広大なカール状斜面が広がる。斜面の底に滑り下りるか、あるいは斜滑降で斜面をトラバースするかだが、高度を下げたくないで斜面のトラバースを選択、数百メートルの斜滑降で稜線下をトラバースして斜面を抜けた。ガイドブックにある露岩から下は雪がない急斜面で左にトラバースできず、凹状斜面

をそのまま滑って行く。しかし、この斜面は下部でストーンと落ち込んでいるのが見えるため、その手前まで下りてスキーを担ぎ、左の雪のない斜面をトラバースすると、再び広大な斜面が広がっていた。ここからの滑降は、今までの苦勞が報われるものであった。鉄橋を目指してひたすら滑降を続ける。右手の台地に滑り込み、急斜面をトラバースすると鉄橋への夏道に合流した。一定間隔で目立つテープがあるため、迷う心配は無い。また、天気も良く気持ちにもゆとりが持てる。H矢さんとは無線機で連絡しながら行動した。鉄橋からの登りは予想どおりきつく、まさに気合いの登りであった。兵馬ノ平から蓮華温泉までも長く感じた。17時45分到着。

5月6日 晴れ後雨

すがすがしい山間の出で湯の朝であった。周囲の山々は朝日を受けて輝いている。シールを貼り、スキーで車道を辿る。2本目の橋が振り子沢で、入り口は狭い。左岸から取り付き、登って行く。やがて傾斜が落ち、平原状の眺めの良い所で一服。ここから沢は広くなり、最後は急登があってそこを越えると乗鞍の斜面をトラバースし、天狗原に帰ってきた。乗鞍の斜面に大勢取り付いており、講習でもしているのか拡声器の声が聞こえた。天狗原を横断すると柵池への下りが始まる。ここらあたりから雲行きがあやしくなり、風も強くなってきた。柵池への斜面は荒れており、転倒による怪我だけはしないように滑った。後は林道を辿り、ゴンドラ乗り場へ。到着後、雨も降り始めた。

結局、この4日間で1日中天気が良かったのは5日のみであった。幸いなことに、この日が最も行動時間の長い重要な行程であり、運に恵まれたと言える。また、私のへたなルーファイにだまって付き合ってくれたタフなH矢さんにも感謝したい。一方、小蓮華から白馬岳への稜線では強風雪にさらされるなど、北に位置するこの山域の厳しさも思い知らされた。スケールの大きな素晴らしいコースではあるが、決して安易な計画で立ち入ってはならないコースであると感じた。



天狗原を目指す



白馬乗鞍の斜面



小蓮華岳への稜線



白馬山荘前にて 今日好天





柳又谷源頭を滑る



長池手前に広がる緩斜面



雪倉岳への登りで白馬岳方面を振り返る



雪倉岳北の斜面を斜滑降で抜ける



スキーを担いで斜面をトラバース



延々と続く滑降



瀬戸川の鉄橋



振子沢を登って天狗原へ